

5. 参考「救急医療情報キット」について

武井 泉

要約 一人暮らし世帯で本人の意識がなく病状等を説明できないような場合でも、救急隊員が「搬送先医療機関」や「かかりつけ医」などと連携し、迅速な救急活動を可能にするアイテムが救急医療情報キットです。

キットの中には、緊急連絡先・持病・かかりつけ医等の情報が入っており、これをあらかじめ決められた場所（冷蔵庫の中）に置くことで、救急隊員が医療情報等の入手に費やす時間と搬送時間の短縮につながります。

Key words : 救急医療情報キット, 救急キット, 冷蔵庫, 高齢者, 安全

(日老医誌 2011; 48: 332-335)

入手困難な個人情報

東京都港区では、高齢者や障害者等が自宅で具合が悪くなり、救急車を呼ぶ「もしも…」のときの安全と安心を守る取組みとして、平成20年5月から東京消防庁と連携し、救急情報の活用支援事業(救急医療情報キット)を全国に先駆けてスタートしました(図1)。

都内の救急車の需要は、搬送患者数とともに年々増加傾向にあり、特に65歳以上の高齢者の搬送患者数は、平成12年から平成21年までに約43%増加しています。また、平成22年の東京都救急搬送実態調査結果によると、救急搬送時間は、51.5分で、搬送先医療機関の選定に7.8分、医療機関到着から医師への引継ぎまでに12.4分の時間がかかっています。

搬送先医療機関では、搬送されて来た患者の親族等の緊急連絡先や医療情報などを必要としています。社会状況などの変化により、民生委員や近隣の住民が個人情報をあらかじめ把握しておくことが困難になってきています。

特に、一人暮らし高齢者などの同居者がいない世帯で、本人の意識がなく病状等を説明できないような状態(重い症状や認知症などでの判断能力の低下)の場合、救急隊員や医療機関が必要な情報を入手するために時間を費やし、一刻を争う救急活動に支障が生じているのが現状

です。

このような状況から、救急時(119番出動)に、本人等が病状等を説明できない場合、緊急連絡先や詳細な医療情報の入った救急医療情報キット(以下「キット」という。)(図2)を事前に自宅の決められた場所に置くことで、救急隊員が医療情報等の入手に必要な時間の短縮を図り、「搬送先医療機関」や「かかりつけ医」等と連携し、迅速な救急活動につなげていくのがこの事業の目的です。

キットを持てば“キットあんしん”

この事業でネックとなったのは、「全世界で常備していないキットの有無を、どのように救急隊員に確実に知らせることができるか」でした。

そこで、玄関ドアの内側に専用のステッカーを貼ることで、救急隊員が駆けつけた際、ドアの内側を見ればすぐキットの有無を確認できるようにしました。

また、救急隊員が容易にキットを探し出せるように、各家庭の台所にある冷蔵庫にキットを入れることにしました。通常冷蔵庫は台所にあるので、台所に行けばキットを見つけることができます。そして、冷蔵庫のドアにも専用のマグネットステッカーを貼ることで、時間をロスすることなくキットの情報を収集できるようにしました。

キットは、申請にもとづき無料で区民に配布しています。キットの中には、救急時に必要な「かかりつけ医」「服薬内容」「持病」「緊急連絡先」等が記載された専用の用紙

《救急情報の活用支援事業》

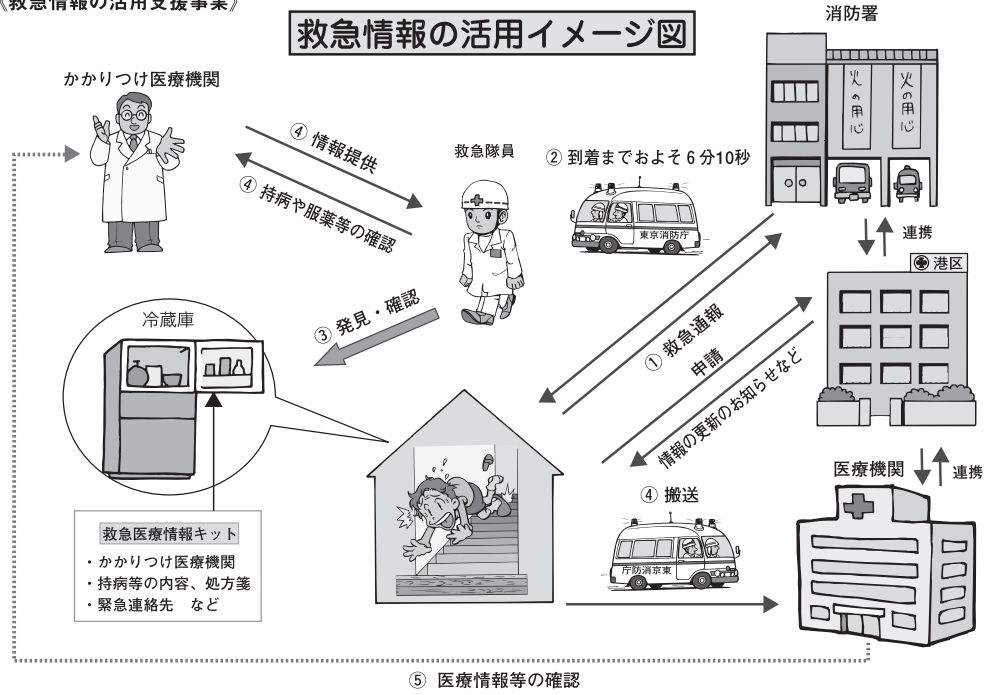


図1 活用イメージ



図2 救急医療情報キット

事業の内容

1 対象者

港区内に在住している次の者

- ①高齢者 ②障害者 ③健康上不安を抱えている人

2 申込み、配布場所

- ・各地区総合支所
- ・福祉会館
- ・各地域包括支援センター（65歳以上）

3 配布内容

- ・救急医療情報キット（容器）
- ・ステッカー（シール製，磁気製各1個）
- ・救急情報シート（※）
- ・救急情報シート（記入例）
- ・取扱説明書

※本人の氏名や住所，緊急連絡先，服薬内容，持病，かかりつけ医療機等を記入する用紙

4 キットの中に収める情報等

- ・救急情報シート
- ・本人の写真
- ・健康保険証の写し
- ・診察券の写し
- ・薬剤情報提供書又はお薬手帳の写し

(図3)を入れておきます。「もしも…」の時は，救急隊員が玄関ドアを開けた際にステッカーを確認し，ステッカーが貼ってあった場合は，台所の冷蔵庫の中からキットを取出し，収められている医療情報等を必要に応じて活用します。

(平成 年 月 日 作成)
(平成 年 月 日 変更)

救急情報
[Emergency medical information]

氏名 [Name]	生年月日 [Date of birth]	性別 [Gender]	血液型 [Blood group]
	(西暦) [大・明] 年 月 日 [昭・平]	男 女 mal femal	型
電話番号[Phone number]		住所[Address]	
()		()	
かかりつけ医療機関[Medical institution]①		かかりつけ医療機関[Medical institution]②	
名称 [Name]			
科目及び担当医 [Department - Doctor's name]			
所在地 [Address]			
電話番号 [phone number]	()	()	
緊急連絡先氏名 [Person(s) to contact for emergency situations]	続柄 [Relationship]	電話番号 [Phone number]	住所 [Address]
[1]		()	
[2]		()	
服薬内容(薬剤情報提供書の写しなど) [Medication(s) currently prescribed]		持病 [Chronic disease(s)]	
その他[Other information] 救急隊員への伝言など			
指定居宅介護支援事業者[Nursing care service provider]	所在地[Address]		
電話番号[Phone number]			
()		()	
同意欄 [Approval field]	容許の中に入っている救急情報を、東京消防庁の救急隊と搬送先の医療機関が、救急医療に活用することに同意します。 [I hereby allow the ambulance attendants of the Tokyo Fire Department and staff of medical institutions to use the above information for emergency medical care.]		
	本人氏名[Your name]	印鑑またはサイン	

※裏面に記入の仕方についての説明があります。

図3 救急情報シート

5 保管情報の更新

キットに保管する情報が、古い情報のままだと、適切な処置を受けることができないため、キット所持者に対して「更新のお知らせ」を毎年1回送付し、情報の更新を促しています。

キットの特徴

1 救急時(119番出動)に、医療情報等をいち早く知ること、迅速な救急活動に役立ちます。本人に意識がなくても、キットの情報を活用することで、必要な情報がすぐに収集できます。

2 自分の個人情報を外部に提供する必要がありません。キットは、本人が保管しており、情報用紙への記入も本人が行うため、安心して細かな情報を情報用紙に書き込めます。また、キットを本人が保管しているため、最新の情報を維持することが可能です。

3 行政が医療情報等の個人情報を収集しないため、情報管理の必要がなく、情報漏洩の可能性がありません。

区は、申請時に「更新のお知らせ」を送るために必要な住所と名前以外の個人情報は収集しないので、医療情報等の情報が外部に漏れることはありません。

おわりに

キットの配布数は、平成22年12月末現在約4,550個で、対人口配布率は2.21%、対高齢者配布率は11.36%です。港区の高齢者の約9人に1人が持っている計算になります。

1人でもキットによって命が助かれば、この事業を実施した効果があったと考えていますが、キットを自宅に供えることで、安心して地域に住み続けられるという安心感を区民に与えられたことが一番の実施効果でした。

理解を深める問題

問題1. 平成21年救急搬送時間がもっとも短かった都道府県について正しいのはどれか（平成22年版 救急・救助の現況 消防庁）。

- a 東京都
- b 愛知県
- c 京都府
- d 大阪府
- e 福岡県

問題2. 平成21年救急自動車による搬送人員がもっとも多かった疾病について正しいのはどれか（消防白書）。

- a 脳疾患
- b 心疾患等
- c 消化器系
- d 呼吸器系
- e 精神系

問題3. 平成21年救急自動車による搬送人員の年齢区分別の多い順として正しいのはどれか（消防白書）。

- a 高齢者—成人—少年—乳幼児—新生児
 - b 高齢者—成人—乳幼児—少年—新生児
 - c 成人—高齢者—乳幼児—少年—新生児
 - d 成人—高齢者—乳幼児—新生児—少年
 - e 成人—高齢者—少年—乳幼児—新生児
-